

第2 【事業の状況】

当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しているため、前中間連結会計期間との比較分析は行っておりません。

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当中間連結会計期間におけるわが国の経済は、原油価格の高騰や長期金利の上昇等の懸念材料はあるものの、企業の収益改善や設備投資の増加などを背景に民需主導の景気回復が続き、総じて緩やかな景気拡大基調で推移しました。

このような状況のなかで、当社グループは調剤薬局事業をコア事業と位置づけるとともに、介護事業を新規事業として展開を進めております。また、当中間連結会計期間から、子会社4社及び持分法適用関連会社1社を含む連結決算に移行いたしました。

以上の結果、当中間会計期間の業績は、売上高は5,926百万円、営業利益は188百万円、経常利益は150百万円となりました。また、特別損失に減損損失126百万円等を計上した結果、中間純損失は11百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

当社グループの主力とする調剤薬局業界におきましては、医療費抑制を目的とした制度改革が進められている中で、医療費の本人負担額の増加等による受診抑制が続いております。平成18年4月の診療報酬改定では、調剤報酬引き下げ(△0.6%)と薬価改正(平均△6.7%)が行われ、調剤薬局業界を取り巻く環境は、厳しさを増しております。

このような状況の中で調剤薬局の店舗展開といたしましては、当中間期に高槻店(大阪府)、三国店(福井県)、太閤店(愛知県)の3店舗を新規開局いたしました。またM&Aにより平安薬局株式会社と有限会社メデコアの2社を全額出資の子会社化したことにより、平安薬局小田原店、平安薬局二宮店、平安薬局元町店の3店舗(神奈川県)を取得し、当中間期末の店舗数は67店舗となりました。

この結果、売上高は5,600百万円、営業利益は349百万円となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、保有資産の有効活用を目的として、三重県津市にビジネスホテルを建築し一括賃貸する契約をルートインジャパン株式会社と締結しており、平成19年2月から賃貸を開始し、長期安定的な収入を見込んでいます。

また、子会社である株式会社ヘルスケア光の事業として、メディカルモールの開業準備を進めており、平成18年11月に第1号となるメディカルモールを三重県津市に開業いたしました。

この結果、売上高は74百万円、営業利益は42百万円となりました。

(その他の事業)

医薬品卸事業につきましては、医療制度改革の一つとして後発医薬品(ジェネリック)の利用促進策が盛り込まれており、後発医薬品の販売強化を目的として、平成18年3月に株式会社メディシンー光として分社化し、経営の効率化と責任体制の明確化を図っていくことといたしました。

また、新規事業につきましては、子会社である株式会社ヘルスケアー光の事業として、メディカルモールの隣接場所に、来年夏頃の開設を目指して、有料老人ホームの開業準備に着手しており、介護事業の本格稼働に向けた計画を進めております。

この結果、売上高は251百万円、営業利益は14百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」)は、前事業年度末に比べて403百万円増加し1,189百万円となりました。営業活動によるキャッシュ・フローの増加に加え、投資活動の支払資金を長期借入金にて確保しております。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において営業活動の結果得られた資金は259百万円となりました。これは主に税金等調整前中間純利益16百万円、減損損失126百万円、仕入債務の増加323百万円等が反映され資金が増加したものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は898百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出205百万円、新規連結子会社の株式取得による支出594百万円等が反映されたことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間において財務活動の結果得られた資金は1,042百万円となりました。これは主に長期借入金の借入による収入1,500百万円、長期借入金の返済による支出372百万円等があったことによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 調剤実績

当中間連結会計期間の処方箋応需枚数の地区別実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当中間連結会計期間 (自 平成18年3月1日 至 平成18年8月31日) (枚)	前年同期比(%)
三重県	328,405	—
京都府	101,393	—
大阪府	83,152	—
兵庫県	40,218	—
神奈川県	43,704	—
その他	125,554	—
合計	722,426	—

(2) 販売実績

当中間連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称		当中間連結会計期間 (自 平成18年3月1日 至 平成18年8月31日) (千円)	前年同期比(%)
調剤薬局事業	薬剤料	4,207,496	—
	技術料等	1,393,002	—
小計		5,600,498	—
不動産事業		74,728	—
その他の事業		251,394	—
合計		5,926,621	—

(注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 調剤薬局事業の地区別販売実績

当中間連結会計期間の調剤薬局事業の地区別販売実績を示すと、次のとおりであります。

地区	当中間連結会計期間 (自 平成18年3月1日 至 平成18年8月31日) (千円)	前年同期比(%)	当中間連結会計期間末 店舗数(店)
三重県	2,360,724	—	29
京都府	923,785	—	8
大阪府	809,869	—	9
兵庫県	373,513	—	4
神奈川県	334,060	—	3
その他	798,545	—	14
合計	5,600,498	—	67

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当中間連結会計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

4 【経営上の重要な契約等】

当中間連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行なわれておりません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。